



Flash News

〈フラッシュニュース〉

三重大学

第11号

目次

- 矢谷学長からの「年頭挨拶」
- 第3回三重大学運営諮問会議が開催される
- 臨時東海北陸地区国立大学長会議が開催される
- 第1回和歌山大学との連携セミナーが開催される
- フルブライト・メモリアル基金による米国教育者が教育学部を訪問
- 「知事と学生との対話集会」が開催される
- 医学部・附属病院で21世紀COEプログラムに関する討論会が開催される
- 東海北陸地区中学生ロボットコンテストが開催される
- 医学部附属病院で日本医療機能評価受審の講演会が開催される

お知らせ

・附属図書館より

矢谷学長からの「年頭挨拶」



矢谷隆一学長

新年を迎え、矢谷隆一学長よりご挨拶をいただきました。

「あけましておめでとうございます。年頭に当たり、一言ご挨拶を申し上げます。今年はいよいよ、法人化の幕開けの年でございます。不安と同時に、希望もある制度に移行します。

平成16年度の国立大学法人等関係予算予定額の概要が示されました。運営費交付金は15年度と実質的に同水準以上と示されています。しかし、平成17年度以降は毎年一般管理費や、教育研究費を削減する方針と報道されており、かなりの減額となることが予想されます。学部・大学院等教育研究費は少なくなりますが、競争的資金や若手研究者の育成のための科学研究費補助金は拡大されます。教官各位が努力して、自分の研究費は自分で獲得するという時代になったことを自覚していただきたいと思います。

次期学長候補者とは、三重大学の生き残りをかけ頑張らなければならないと話しておりますが、この生き残りという意味は、ただ単に延命するというのではなく、光り輝く部門をつくって発展させなければならないという意味であります。教職員皆様方の素晴らしい遺伝子を十分活用することによって、この三重大学が発展することを願い、年頭の挨拶といたします。」

第3回三重大学運営諮問会議が開催される

12月15日に、標記の運営諮問会議（議長：武村泰男・前学長）が開催されました。フラッシュニュース第2号でも紹介しましたが、本諮問会議では、大学の教育・研究上の基本的な計画に関する重要事項等について学長の諮問に応じて審議し、学長に対して助言・勧告を行います。

今回の会議では、大学執行部からの報告として、矢谷隆一学長から、法人化問題への取り組み状況、地域貢献特別支援事業の開始、地域連携推進室の活動などの報告、豊田長康学長補佐から、次期学長予定者としての挨拶と法人化後の基本方針などに関する一連の説明が行われました。続いて、委員の方々からは、国立大学法人化後の三重大学の在り方について意見・質問を頂きました。主な内容は、年度予算の執行期限の自由度、給与基準決定の自由度、大学同窓会への協力依頼、病院経営の方針、大学教官の地域貢献状況、連合大学センター構想などです。

次回の運営諮問会議は3月に開かれる予定ですが、その後、2年間の審議内容を踏まえた答申が提出される予定です。なお、前回の答申については (<http://www.mie-u.ac.jp/gakunai/simon/tosin.pdf>) をご覧ください。

臨時東海北陸地区国立大学長会議が開催される

1月6日に、臨時東海北陸地区学長会議が開催され、本学からは豊田長康学長補佐（学長代理）他が出席しました。主な議事は、大学法人化後の運営費交付金、および中期目標・計画の修正に関することでした。文部科学省の説明では、まず、(1)平成16年度文科省予算は4.1%減となるが、国立大学の予算は15年度並に確保されたこと、(2)平成17年度から効率化係数がかけられ運営費交付金が毎年減額されていく。この効率化係数は、当初一般管理費3%、教育研究費1%とされていたが、現在は両者とも1%となるよう財務省と交渉していること、(3)効率化係数の掛けられる対象範囲をできるだけ限定する方向で財務省と交渉していること、(4)競争的に交付金を獲得できる増額の仕組みを作ること等が説明されました。また、中期目標・計画の策定に関しては国立大学法人評価委員会の見解として、(1)達成に係わる学内の責任の所在を明確にすること、(2)達成状況を示すための指標（数値目標を含む）を学内で開発すること、(3)評価は単なる達成度そのものではなく総合的に行われるものであり、各大学においては確実に達成される目標を設定するというよりは、各大学の質的向上を図るという観点に立つべきこと、などが説明されました。

第1回和歌山大学との連携セミナーが開催される

現在、和歌山大学と三重大学の連携協議が進んでいます。その一環として、11月25日に和歌山大学との連携セミナー（第1回）が医学部第2会議室で開催されました。和歌山大学システム工学部の土谷茂樹教授、越本泰弘教授に「マイクロセンサー、マイクロマシン技術の医療への応用の可能性を探る」というテーマでお話を伺い、マイクロセンサー、マイクロマシンの医療への応用が可能かどうか等について、各学部の先生方から熱心なディスカッションがなされました。このような和歌山大学との意見交換が、三重大学との共同研究のきっかけとなり、両大学の実質的な連携に発展することが期待されます。

フルブライト・メモリアル基金による米国教育者が教育学部を訪問

11月25日、昨年に引き続き、フルブライト・メモリアル基金による米国初等・中等教育者18人が、教育学部を訪問しました。はじめに数人ずつに分かれて絵画、心理アセスメント実習、日本語指導、計測工学、楽器奏法の授業を見学し、担当教官の説明を聞き受講生と会話をしました。次に小ホールに移り、丹保健一学部長から大学及び学部の概要説明を受けた後、訪問者が質問する形で教育学部教官及び代表学生と、大学法人化や日米の教員養成制度などについて活発な意見交換会が行われました。

「知事と学生との対話集会」が開催される



野呂昭彦三重県知事

12月17日、人文学部（学部長：渡邊悌爾教授）創設20周年記念企画の一環として、「知事と学生との対話集会」が三翠ホール（小ホール）にて開催されました。矢谷学長挨拶の後、まず野呂昭彦三重県知事から「若者と創るすばらしい三重県像」というテーマで講話があり、「従来公共的な仕事はすべて行政（役所）が担うという意識であったが、住民と行政が協働する『新しい公（おおやけ）』づくりが大切である」として、若者たちへの積極的な参加を呼びかけました。続いて、「三重県の食；安全で健康な食のために」、「異文化交流とまちづくり」、「ごみ・環境問題」というテーマによる学生の発表があり、知事からは学生の質問の一つ一つ丁寧な回答とコメントが示されました。学生、一般を含め150名ほどの参加があり、盛会裡に終了しました。

医学部・附属病院で21世紀COEプログラムに関する討論会が開催される

暮れも押し迫った12月25日、医学部（学部長：鎮西康雄教授）主催による21世紀COEプログラム申請へ向けての学内検討会が医学部会議室で開催されました。工学部・生物資源学部の教官数名と医学部の教官・学生約40名の参加がありました。前2年度にわたる申請に関する問題点の検討・今回の公募に関する情報交換や提案などの総論的な議論を行った後、医学部教官からの具体的な申請課題について3題の提案（プレゼンテーション）があり、建設的な議論が交わされました。長期的な視点からの三重大学固有のCOE形成にも繋がる議論ではなかったかと思われます。

東海北陸地区中学生ロボットコンテストが開催される

12月20日、本学第一体育館で「第1回創造アイデアロボットコンテスト東海・北陸地区中学生大会 in 三重」が三重大学教育学部（世話人：松岡守教授）、東海北陸地区中学校技術・家庭科研究会、三重県中学校技術・家庭科研究会の共催で開催されました。大会には5県から20校30チームの生徒が参加し、11個のスポンジボールを相手コートに送り合う熱戦が展開されました。三重大学工学部、鈴鹿工業高等専門学校、及び津工業高等学校によるロボットのデモンストレーションも行われました。



医学部附属病院で日本医療機能評価受審の講演会が開催される



葛原茂樹病院長



富田信也病院長補佐

1月8日、病院長補佐・富田信也氏による講演会「私たちは変わりますー患者様本位の医療へー」が開催されました。広い医学部臨床講堂は、医師、看護師、技師、事務職員など多数の病院職員で埋まり、立ち席も出るほどの大盛況で、医療機能評価機構への関心の高さが伺えました。日本医療機能評価機構は、医療の質を設備、機能、システム、接遇など多方面にわたって、利用者・患者の観点から点検・評価するために設置され、その認定は「優良病院の日本標準」になりつつあります。附属病院では今年10月の受審を予定して準備を進めています。

お知らせ

附属図書館よりー東南海・南海地震シンポジウム

災害対策プロジェクト室と附属図書館では、地域貢献特別支援事業の一環として、2月7日（土）にアストホールに於いて、標記のシンポジウムを開催します。昨年末に三重県全域が地震防災対策推進地域に指定され、予想される巨大地震に対し地域の対応が求められるなか、本シンポジウムは、三重県、津市、四日市市と協力し、地域住民の災害に対する認識を深め、防災意識の向上を図るものです。ふるって御参加頂きますようお願い申し上げます。

（問い合わせ先：附属図書館企画調整係 TEL 059-231-9083 http://www.lib.mie-u.ac.jp/exhibition/shinsai_symp/shinsai_symp.html）



投稿のお願い

各種事項（法人化問題、地域連携、国際交流、学内事業等）に関するフレッシュなニュースの提供をお待ちしております。畑中重光 (hatanaka@archmie-u.ac.jp) または井上真理子 (mariko-i@ab.mie-u.ac.jp) まで。場合によっては、取材に向きます。（フラッシュニュースのバックナンバーは、三重大学ホームページでご覧いただけます。）